

駿河海さんを探して

岩崎安次

昭和六十年年前後の事であった。静岡新聞で「あの人はいま」というコラムが掲載された。往年の各界で活躍された県内出身者の今を紹介するという企画である。

そのひとつに元幕内力士の駿河海光夫さんを紹介したいというところで、私のところへ氏の消息を知りたい旨の問い合わせがあった。早速前川さん、神田さんをはじめとする静岡市相撲奨励会のメンバー、更には焼津の下村さん、富士の田中さんにも尋ねたがわからず仕舞いだっただので、一旦は新聞社の担当者にその旨を連絡した。が、そのあとふと思いついたのが氏が、静岡市大谷の出身であることから、実家があればそちらに問い合わせればわかるだろうと川上君に依頼した。

川上君のお母さんが実家に行き、氏は東京都世田谷区桜新町に居ることを聞いてくれた。改めて新聞社の担当者にも連絡してやると「エーわかりました、どのような風に調べたのですか・・・」と喜びと驚きの声が伝わってきた。その後、取材の結果が新聞紙上に掲載され読者の目に入る事となった。

駿河海さんは出羽の海部屋の力士で、十両時代二場所連続優勝して幕内に入ったのだが丁度その頃怪我をしていた足を、好調なるがゆえに完治させぬまま場所をつとめた事が災いしてその後の出世をふいにしたという。

同僚のうちに大関になった増位山、汐の海よりも期待された大器だっただけに、惜しみて余りあると振り返る人も多かったと聞いている。

氏は昭和二十四年の県連盟の設立会議にも参加されたと聞いた。

無事生還！

2月3日午後一時過ぎ、自宅近所で散歩している竹内さんに偶然会い、無事退院できた事の話しを聞き安心しました。

去年12月13日の忘年会に、何の欠の連絡がないので前日の12日に電話したところ、12月6日(土)、会社の人達と飲みで、訳が分からなくなり夜中の一時半ごろ、自宅近所の神社の境内に倒れていたのを、通りかかった人に発見され、今、済生会病院に入院しているとの事。すぐに見舞いに行き、検査結果、頭にヒビが入っていたと直接本人に会い、聞きました。

静 商 溪 声 俳 句 会

薄墨の表書きする余寒の夜 岩崎 安次  
短日や荒田に朽ちし耕運機 高橋 璋  
梅満開見なおす程の華邸 加賀美 幸  
朝市の元気なる声息白し 原川 芳朗  
下駄の音外湯巡りや息白し 佐藤 康紀  
豆撒きの声や隣家の子沢山 永田 峰雄  
土一揆祀る祠や寒椿 牧田 秀峰

看護にいた娘さんから、「年内には退院できると医者から言われたから、大丈夫ですよ」との事。

「本人曰く、何処でどうなつたか、全く覚えていないし、見つても無いし、笑われるし、大江誰にもいらないよ」と口止めされてしまいました。治療の結果一月二十日退院、最初は付き添いで散歩、今では一人でOKと威張っていました。

「通りかかった人の発見が無ければ凍死」「傷が浅かった」と素人の考えですが、

良かったですね。酒飲みは気を付けましょう。(竹内さんからの口止めもあり、退院したのを確認した為、ごく簡単に公表しました。)

☆ SBS学園藤枝校

大相撲初場所観戦

下村勝彦

平成27年初場所は、白鵬33回目の優勝で千秋楽を迎へ、又15日間大入りという人気で幕となった。その後、白鵬の審判批判でミソをつけたのはいただけなかったが・・・。

昨年暮れ、SBS学園さんより依頼があり、藤枝市高洲の老人施設で相撲文化の講演をしたあと、SBS学園藤枝校の江崎さんより、学園の生徒さん達を大相撲見学させたいとの相談を受け、日本相撲協会のチケット扱い担当者へ連絡、1月19日9日目の2階A席を23名分確保してもらった。

当日バスで向かったが、両国へ着くまでの車中「すもうあれこれ」という題で観戦の参考になればと話をさせてもらった。このツアーには静岡同窓会副会長赤石君の奥さんや、堀越さんも参加していただいた。

国技館へ入る前、明大相撲部後輩の店で、両国のチヤンコ鍋で有名店『巴瀉』で、おすすすめチヤンコ鍋を食べ「美味かった」と、皆さん満足の様子であった。歩いて国技館へ入り、正面で記念写真をパチリ。

東2階席は、自分も初めてだが、土俵も近くに見える館内全体が見えるので、なかなか見やすく、参加した・・・。

☆ ちちから会へのご寄付誠に有難うございます。静岡市葵区千代田(吉永タイヤサビロ) 吉永輝夫 様

高槻市 静岡同窓会関西支部 富坂誠二 様

H26年度ちちから会年会費納入誠に有難うございます。小林直樹・斉藤順也 (敬称略)

皆さんから好評であった。イス席で足への負担もなく、年配の人達は喜んでいた。横綱土俵入りまで土俵溜りにある記者席で、共同通信社の京須君と雑談しながら見ていた。取り組みが始まり2階席へ戻ったが、改めて、2階席の見やすさを感じた。

前日に4年ぶりの天覧相撲があり、天皇・皇后両陛下が座れた席と同じ位置の席だということで、皆さん満足されているようでした。

遠藤も勝ち、白鵬も全勝を守り、館内興奮のさめやらぬ中、ハネ太鼓を聞きながら帰りのバスへ向かう。

☆ 焼津市議会選挙 村松幸昌君 初当選!

焼津市相撲連盟副会長、県相撲連盟副理事長の村松君が、焼津市議選に初立候補し、2月1日に投票が行われ、スポーツ・武道関係・地元など幅広く支援を得て、2324票で初当選した。

(息子の昌崇君は平成10年度静岡相撲部で活躍、神奈川県に出場している。)

平成15年、静岡国体相撲競技を焼津市で開催する事が決定すると焼津市役所に相撲部を立ち上げ、東日本全日本実業団大会で活躍し、静岡国体では、部員と共に大会運営に尽力し、大会成功に導いてくれた功績は大きい。

38年間市役所に勤務し、部長等の要職を務め、市の内部には精通しているの、中野市長 (明大の後輩)も大いに期待している。

我々武道協議会や、スポーツ関係者にとっても武道館、体育館の建設や市の観光事業はじめ、街の活性化に経験を生かして、頑張つて欲しいと願っている。 下村勝彦

☆ 大相撲本来の技能伝統を学べ

焼津市・岩崎安次(無職74歳)

静岡新聞2月7日(土) 朝刊 「ひろば」より抜粋。

昨今の相撲は、ショー化し伝統文化を感じない。遠藤や逸ノ城に限らず幕下付け出しでデビューした力士が伸び悩んでいる姿を名横綱若乃花の故二子山親方が見たらきつと、「ちゃんこの味が染みていない」と言うだろう。要するに経験不足の一語に尽きる。

スピード出世をうんぬんされているが、序ノ口から上がってくる力士に比べると、修業時間の違いが相撲界の風習伝承に微妙な影響を及ぼしているのではないかと。幕下付け出し制度を廃止して序ノ口からスタートするのが策ではないだろうか。

部屋としては、有望な力士を早く関取にして部屋の「米びつ」としたいだろうが、序ノ口からでも現状制度の資格の持ち主なら1、2年で関取の座に上がる力があるはずだ。その間に大相撲本来の技能、伝統を学ぶべきである。

「上に行ったらそれなりの、下へ落ちたらそれだけの」相撲といわれる。大相撲の伝統を身につけての鍛錬こそが必要である。

今まで多くの力士が幕下付け出しで角界入りしたが、横綱になったのは54代輪島だけである。 完。

☆ 金谷小学校すもう教室開催

今年も金谷小学校で『日本の文化を学ぼう』という授業の中に、相撲が取り上げられ1月中旬に打ち合わせが行なわれ、1月22日木曜日の10時30分開始。5日間(10時間)行い、2月28日に発表会をやることになった。

平成19年に初めて開催してから、今年で9年目となるがこれまで、教室で相撲を体験した子供の中から県大会へ出場し、入賞した選手もいるが、中学校へ進んで継続できないのが残念である。

今年も男子16名だが、近年になく体も大きく、しっかりしている生徒達で挨拶も、動きも良く指導がしやすい。28日の発表会には、生け花、大正琴、茶道、和太鼓なども行われるが、何と言つても相撲が一番の人気で、トーナメント戦で大いに盛り上がる。優勝者には大相撲カレンダーを贈るが、子供よりも親の方が喜んでくれる。今年も県大会へ学校とも相談しながら、一人でも多く参加させたいと楽しみにしている。 下村勝彦

◎(案)我々静岡市相撲連盟も毎年静岡市子ども相撲教室を4月から10月末の半年間開催していますが過去中学校に入ると相撲部が無い為に、野球や柔道他に行つてしまい、本当にもつたいないと思つている次第です。静岡市内の野球に詳しい方から聞いた話ですが、安倍川中、美和中、観山中の野球部は、3、4人の部員しか集まらなくて練習、試合も出来なく考えた末、3校合同での練習、県内までの大会出場を上層部に相談した結果、規則を変えて3校一チームでの出場の許可が出たとの事。(静岡方式)とにかく子供優先の考えでいきたいと思つているとのこと。今年も2人の子が中学校別に入学しますが、この子達が学校が違つても3校一チームで団体戦を組み、個人戦出場出来ることになれば相撲教室も賑やかになるし、大会も賑やかになる事と思ひます。これは県下8支部共通の事と認識し中学校関係者、県連のご英断を頂きたいと思つています。時代は変わつていくとの認識を持ち、新しい事には素早く改革していきましょう。 大江弘文。